

蒼葉

裾野市立深良中学校だより

平成 24 年 6 月 27 日(水)

第 11 号

発行人 校長 鈴木史良

授業の充実を図る

—— 生徒自ら問う力をつけさせる授業への変革 ——

6月23日(土)は授業参観並びに部活動親子交流会にご参加いただき、ありがとうございました。数年ぶりに開催しました部活動交流会では、保護者の皆様の若々しいプレーを拝見させていただきました。大きな怪我もなく無事終了でき、改めてPTA役員の方々をはじめ、保護者の皆様のご協力に感謝申し上げます。

中学校では先生方が授業力をさらに向上させ、子どもたちに確かな学力をつける授業の研究がスタートしました。従来の授業は、教師が問いを発して生徒がそれに答えるという形式が一般的でした。知識が身についたかどうかを知るために

このように教師が問いを発することももちろんあります。ただ、それだけではなく、基礎的な学習事項を活用して自ら考え、判断し、表現することにより、さまざまな問題に積極的に対応し解決する力が求められています。(文部科学省/学習指導要領)

そこで本校では、生徒たちに学びの力をつけるために、生徒自ら問いをもたせることを第一歩と考えました。受け身的な学習ではなく、生徒たちが主体的、意欲的に学習できるようになることを目指しているからです。

教師の投げかけや働きかけによって、「あれ、へんだなあ?」「本当はどうなの?」という問いを触発された生徒たち。この生徒たちが自ら抱いた疑問や課題を解決するために調べたり、実験したりして自分なりの考えを発表し合います。そこにはさまざまな見方や考え方が出てくるでしょう。生徒たちはそれを互いに聞き合い、意見を交換し合って多面的な考え方を知り、自分をさらに高めることをねらいとしています。では具体的に、最近の授業を見てみましょう。

● 1年生理科(川合先生)の授業

1年生は今、「植物のからだとはたらき」を学習しています。生徒たちはこれまでの学習で、葉が光合成や蒸散など植物の成長にとって重要な役割を担っていることを理解し、光合成が行われるのは緑色の葉という知識を身につけています。この学



生徒とともに先生方も学ぶ研究授業



父親、母親パワーを見せた親子交流部活動

習をさらに発展させるため、教師は緑の葉のほかに紫や赤色の葉を用意しました。

これまでの授業だったら、教師は『いろいろな色の葉が光合成するか調べよう。』と呼び掛け、生徒はその指示に従って黙々と実験して確かめたことでしょう。

この授業で教師は『光合成は緑の部分だけで行われるのだろうか。』と呼び掛けました。

このように投げ掛けられると、生徒たちは、

「え？ 緑だけじゃないの？」「他の色の葉でも光合成するのだろうか？」と新たな問いを触発され、授業に身をのり出していきます。そして班で調べた結果を報告し合うことによって、他の班との共通性を見いだしたり、他の班の新たな発見に触れたりすることができます。手順を示され、その通りに実験していくよりもはるかに意欲的に、しかもわくわくした気持ちで学ぶことができます。友達の意見や発想を聞いて、自分の考えの幅を広げることもできます。

深良中では理科だけでなく、どの教科でもこのような学びの実践を積み重ね、生徒たちの学力の向上を目指します。



豊かな学びで世界に羽ばたいてほしい生徒たち

ある日の授業風景 2年生 【サーカスの馬】 授業者 宮野修治

「僕のように何もできないと思っていた馬が、実はサーカス一座の花形だったから」という答えが返ってきた。「あれ、質問は何だったかな」ともう一度みんなに聞いてみる。『思い違いがはっきりしてくるにつれて僕の気持ちは明るくなったとあるけど、僕はどんな思い違いをしていたのかな』だったよね。つまり、この馬について僕がこれまでどんな馬だと思っていたのかを答えてから、いきなり花形だったというのではなくて、実はそうではなくてこんな馬だったと答えたいね。前の時間にノートに書いたこの馬の特徴と併せて考えてみようと言った。ノートを開きそれぞれが描いた馬の絵を見ながら思い違いを考えていった。



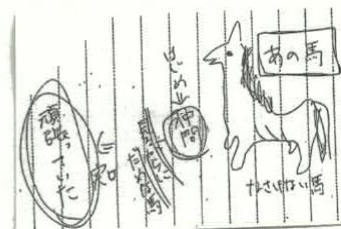
〈生徒のノートより〉

・人目につかない場所につながれている。

・団長に殴られたと思っていた。

・十分に食べさせてもらえない。

そうか、厳しい練習をしていたからこんなひきしまったのか。人を乗せていたから背中がへこんだんだ。静かに休ませていたのか。



〈生徒のノートより〉



〈生徒のノートより〉